

令和7年度 第2回豊田市スポーツ推進審議会 会議録

【日 時】 令和7年10月30日（木）午後2時～

【場 所】 豊田市役所 南52会議室（南庁舎5階）

【出席者】
（委 員） 伊藤 央二 （中京大学スポーツ科学部 教授）《会長》
粕谷 浩二 （（公財）豊田市スポーツ協会 常務理事）《副会長》
伊藤 宏志 （愛知県中小学校体育連盟豊田支所 支所長）
梅村 郁仁 （（株）名古屋グランパスエイト 広報・ホームタウン部 部長）
太田 明季 （公募委員）
清水 弥生 （（一社）豊田市身障協会 副会長）
杉本 由香里 （豊田市女性スポーツ団体協議会 副会長）
手嶋 道雄 （豊田市スポーツ少年団 本部長）
寺尾 悟 （トヨタ自動車（株）トヨタスポーツ推進部スポーツ支援室パートナーシップ推進G グループ長）
西脇 委千弘 （（株）豊田スタジアム 取締役）
仁村 保郎 （豊田市スポーツ推進委員協議会 会長）
野尻 雅代 （公募委員）
築瀬 歩 （地域スポーツクラブ会議 代表幹事）

【事務局】
塚田 知宏（魅力創造部副部長） 中野 洋介（スポーツ振興課課長）
鷹見 英志（スポーツ振興課副課長） 榎津 祐樹（スポーツ振興課担当長）
藤村 修祐（スポーツ振興課担当長） 宇佐美 雅也（スポーツ振興課担当長）
沢田 浩明（学び体験推進課担当長） 長谷川 眞子（スポーツ振興課主査）
北田 青空（スポーツ振興課主事）

【傍聴人】 なし

【次 第】
1 会長挨拶
2 議題
（1）第5次豊田市生涯スポーツプラン（素案）について
（2）部活動の地域展開ガイドラインの作成について（報告）
3 その他

【会議録】

■会長挨拶

会 長：前回に引き続き、お忙しい中集まっていたことにお礼を申し上げる。前回の審議会では非常に活発な議論が展開され第5次豊田市生涯スポーツプランの策定を進める上で非常に重要な会となった。今回の審議会ではスポーツプランの本編の内容について議論いただき、プランに反映させ、12月のパブリックコメントにて市民の意見聴取を行っていく。第2回も有意義な会となるよう活発な意見交換をお願いしたい。

■議題（1）第5次豊田市生涯スポーツプラン（素案）について

事務局：資料に基づき、第5次豊田市生涯スポーツプラン（素案）について説明

会 長：内容が多いため、最初に資料1-3について、ご意見、ご質問があればお願ひしたい。

委 員：重点プロジェクトで、「子どもの可能性を広げるスポーツ環境の充実」としているのはとても良いことだと思う。子どもがスポーツに出会うのが幼児期であるとすれば、「遊び」を通してスポーツに触れ、小学生の時期や中学生の時に「遊び」から「スポーツ」へと認識が変わっていくと考えている。小学生の時期や中学生の時にスポーツに親しめる環境を整えておくことが重要である。子どもの時期にスポーツに親しめるかが、その後のスポーツとの関わり方に大きな影響を与えるため、今回の重点プロジェクトの対象が子どもになっていることはとても良いことだと考える。

委 員：子どもを含めて、若い世代に「ひと」・「もの」・「金」をかけていくことは重要と認識している。一方で、成人以降の人々の生涯スポーツを推進していくためには、市内に多数ある民間のスポーツクラブとの連携が必要と考えているが、そういった団体との連携の可能性はあるか。

事務局：年代別でのスポーツ振興について考えた時に、生涯にわたるスポーツの実施に一番重要な時期を「子ども期」だと考えている。そのため、子どものスポーツ実施のきっかけづくりを行うために市として重点的に様々な事業を行っている。
成人については、子どものように教室事業を実施して来てもらうなどの直接的な事業は行っていないが、豊田市スポーツ協会の加盟団体やチームなどに対するサポートを行い、成人的方がいつでもスポーツに参加できる環境を提供している。そこから更に一歩進んで民間スポーツクラブとの連携については検討段階である。

委 員：例えばスカイホール豊田のジムを利用したいと思った際に、混雑状況やスカイホール豊田と居住地からの距離によって、利用者が限定的になることが予想される。民間のフィットネスクラブを利用する際に豊田市在住の方は、利用料金を安くするなどの利点を増やすだけでも、スポーツ人口は増えていくと考えている。

また、高齢化も進んできているため年配の方も巻き込んだ事業が必要になってくる。基本的な事業のターゲットはこどもに向いているが、もう少し視野を広げて各世代のスポーツ環境を整えることで世の中のスポーツに対する意識が変わってくると思う。こどもだけに注力しすぎて、他の世代が疎かになると、市の施策として十分とは言えないと感じた。

会 長：民間の力の活用という話があったが、中央公園も民間の枠に入ってくる認識で良かったか。

事務局：運営主体は民間であるため、その認識で間違いない。

会 長：中央公園との連携や活用も視野に入れると良い。

委 員：運動やスポーツが好きなこどもは増えてきていると感じている。しかし、こども自身はスポーツをしたいと思っていても、保護者も一緒になって楽しみたいと思うような活動が少ない。子ども会を例にあげると、こども自身はしたい活動があるが、保護者が役員や当番を担わなければならず、数年続けていると保護者の代表にならなければならない事態が発生する。保護者はこのようなことを避けるために子ども会などの活動に参加することをやめて、こどもがスポーツに取り組めない事態が発生する。保護者が関わる役員制度等の見直しなどが行われないと、こどもがスポーツに親しむ機会が減っていくと思っている。

また、地域の中で未就学児童を対象にした教室を年に 5~6 回実施しているが、参加しているこどもの面々は変わってないので、より直接的な PR が必要である。ある小学校では平日の放課後に教員とは別の指導者を招いて、現在流行りのボッチャ教室を行っており小学生から大変好評である。

スポーツ推進委員として極力こういった活動に協力したいと考えている。学校に全てを一任するのではなく、放課後の活動に地域の人が指導者として入っていく活動についても市が積極的に PR して欲しい。

委 員：こどもたちを主とした様々な取組をしていくということであったが、中心は、「部活動の地域移行」であると認識している。豊田市内に様々な競技のスポーツ少年団がある中で、少年団との連携は視野に入れていいのか。

事務局：ご指摘いただいた、部活動とスポーツ少年団について、志向性が少し異なると考えている。スポーツ少年団は小学生から加入でき、部活動よりもハイレベルであるという認識でいる。一方で部活動については、「誰でも参加できる」ことを主眼に置いている。もちろん、こども自身の判断で、少年団から部活動へ移ることも可能である。また、少年団の活動を継続し、部活動では全く別の競技を行うこともできる。こどもたちの選択肢を広げることが、今後の部活動・地域クラブ活動の意義だと考えている。

委 員：家庭が裕福なこども、保護者が積極的に送迎に関わることも、市が主催している教室などに参加できる。先日わくわくワールドに参加し、多数のこどもが来場していた。その日に自治区の公園を覗いたところ、多くのこどもが公園で遊んでいた。保護者が連れて行ってくれないから近くの公園で遊ぶしかない。市が市民にとって有意義なイベントを開催したとしても、イベントや教室に参加できないこどもたちがたくさんいる。

自分の住んでいる自治区では、フットサルチームを立ち上げ、先日大会にも出場した。参加するこどもが多数おりニーズがあることが分かったため、自治区にあるグラウンドに子ども会のフットサルゴールを出した。ゴールを出す前はグラウンド利用者が10人以下であったが、ゴールを出した後は利用者が30人ほどに増えている。保護者が送迎できず遠くまで行けないこども、保護者がお金をしてまでスポーツをやらせてくれないこどもたちのスポーツをする機会を損なうことが無いように、自治区でスポーツイベント開催やきっかけづくりなどを行っている。先ほど、スポーツ少年団の話も出ていたが、子ども会と同様に保護者が役員を担う必要があり、こどもを通わせていないケースが多数ある。フットサルの大会を実施した際に、初心者であるにも関わらず、センスを持ったこどもがたくさんおり、こういった小さなきっかけでアスリートが生まれていくと感じた。

市が現在プランとして掲げている施策の数々は民間のスポーツクラブがやるべきことだと思っている。市がやるべきことは、1人1人のこども達がスポーツに親しめる環境を提供することである。市が全てを担うことが難しいのは重々承知しているため、自治区や子ども会に向けて、こども達にどんなニーズがあるかを調査し、自治区や子ども会単位できかっけづくりを行えるよう市が支援していくのが大切なのではないか。現在プランに掲げているものだと、いつも参加できるこどもだけが参加する形になってしまう。

スポーツ施設整備についてだが、こどもたちが市営のプールに行っても、混雑しており、プールを利用せずに帰宅してしまう事態が発生している。自分の自治区には、そのようなこどもが多数いるため、資料上でスポーツ施設が充実しているとなっていることに違和感がある。

また、松平体育館については温暖化が進んでいる時期に建設されたのにも関わらず、空調設備が設置されていない。昨今は、9月まで暑さを感じることが多く、夏バテするこどもが多い。利用者の立場として考えた時に、建設して満足しているのではないかと感じている。

事務局：委員の意見にあった体育施設の空調とプールについてだが、松平体育館も含めて市内の体育館については、空調設備の設置に関する事前調査をしている。来年度工事を開始し、順調にいけば再来年の夏に全ての体育館に空調を設置する前提で検討を進めている。

また、市営のプールについては、前回の審議会でもご意見をいただき、改善策として豊田スタジアムのプールの利用者が混雑状況を把握できるように、今年の8月からインターネットで混雑状況がわかる仕組みを導入した。夏の混雑自体を避けることはできないが、できるだけ利用者の循環が可能となるように整備した。また、長期の視点として他の市営プール施設が必要かどうかも検討している。

委 員：これだけスポーツツーリズムの内容が盛り込まれているのは素晴らしいと思う。

資料1-3の（5）【本市スポーツ資源を生かした「みる」スポーツの推進】については、市民の「みる」スポーツのことについて示していると理解しているが、（6）【地域活性化に効果的なスポーツツーリズムの推進】については、どのようなスポーツツーリズムを推進していくこうとしているのか、資料の中だけでは読み取りづらい。資料を拝見する限り豊田市では「みる」スポーツツーリズムの観点と、大会やイベントを開催する「する」スポーツツーリズムを重点に据えているように思うが、資料1-3の【「取組の方向性」に紐づく具体的取組】（6）に様々な取組が記載されており、「する」スポーツツーリズムを推進していきたいのか、「みる」スポーツツーリズムを推進していきたいのか読み取ることができなかった。例えば（6）-①にアジア・アジアパラ競技大会などの様々な大会について記載があり、大規模な大会の誘致を行いたいことは読み取れるが、これは観戦者を呼び込みたいのか、大会の選手たちを呼び込みたいのかが分かりにくいため、具体性を持たせる必要があると思った。

また、【豊かな自然資源を生かしたスポーツツーリズム】とある。豊田市が自然豊かなのは承知しており、それを生かしたアクティブスポーツやアウトドアスポーツのイベントを開催するだけでもスポーツツーリズムになるとを考えている。【トレイルランやサイクリング等の大会誘致】は、この項目に当てはまると思うが【ハイキングやゴルフ、キャンプ等の日常のアウトドアスポーツの推進】は大会誘致とは異なり、イベントの開催でもないためこの項目には合致しないのではないか。これらのこと踏まえ、何を、どのような人たちに向けて推進していくのか具体性を持たせると良いと思った。

事務局：スポーツツーリズムとして（6）-①の箇所において「する」スポーツツーリズムは【豊かな自然資源を生かしたスポーツツーリズムの推進】に当てはまり、【大規模スポーツイベント・大会・合宿の誘致・開催】が「みる」スポーツに当てはまるものとして資料を作成している。資料上では、「する」と「みる」の違いが明確化するように修正をする。【「取組の方向性」に紐づく具体的取組】の【取組名】の箇所に、「する」に該当するのか、「みる」に該当するのか明示をする必要性を感じた。

市としては、「する」と「みる」のスポーツツーリズムの推進をしていく中で、誘致を行い集客や宿泊、飲食などの消費喚起につなげていくことが重要であると考えている。また、大規模スポーツイベントの誘致に関しては、「みる」スポーツと「する」スポーツの両方が含まれている。豊田市には、豊田スタジアムやスカイホール豊田など全国有数の施設があり、名古屋グランパスやアジア・アジアパラ競技大会をはじめ、国内のトップリーグや国際大会を開催している。これらは「みる」に分類される。先日スカイホール豊田では B リーグ（バスケットボール）も開催された。その他にはアマチュア大会で全国大会に繋がる大会などが開催されている。これは「する」に分類されると認識している。この 2 つの施設については、ある程度大規模な大会誘致が出来ている。また、これらに加え新たな取組として豊かな自然を生かしたアウトドアスポーツを実施し、スポーツツーリズムを推進していく。

委 員：「する」スポーツツーリズムとは豊田市民が「する」という意味で間違いないか。そうであるならば、東海大会以上の大会誘致をしたとしても市民はスポーツをしない。それを「する」スポーツに分類してしまうのは少し乱暴だと感じた。「する」スポーツツーリズムの評価指標についてだが、地域活性化に効果的なスポーツツーリズムを推進していくのであれば、大会の参加者数は指標にならないと思っている。観光で得た経済効果はどの程度かなどを指標に据えるのが適切である。

また、資料 1-3（6）【地域活性化に効果的なスポーツツーリズムの推進】と記載があるが、地域の観光資源をスポーツと結び付けて利用する視点について記載がない。下山地区では、観光協会の観光戦略会議にて、三河湖の外周道路をスポーツツーリズムの視点でどのように活用するかを思案しており、ジョギングやトレイルランを行う場を提供し多くの人に来てもらうための施策を考えている。しかし、現在の市の素案は、豊田スタジアムやスカイホール豊田に来てもらうことが前提になつており不安を感じる。

言葉の選び方として、「する」「楽しむ」「支える」とあるが適切であるか。この言葉の選び方だと、「する」と「支える」は楽しくないイメージを与えかねない。スポーツを「楽しむ」とは、「する」ことも「支える」ことも、もちろん「みる」ことも楽しむのであって、「みる」を「楽しむ」に置き換えてしまうのは違和感がある。

また、スポーツ格差については確実に存在しており、世帯収入によってこどもがスポーツを満足に習うことができない現状があり、それは市が解決すべき問題である。一方で、市レベルの推進計画であるため、今後もわがまちアスリートを応援していくのであれば、長期的視点に立ち豊田市内でタレント発掘することを謳う必要があるのでないだろうか。将来わがまちアスリートが枯渇する事態を避けるためにも、そのような要素が資料にあると良い。

会 長：普通「する」「みる」「支える」が一般的だが、「する」「楽しむ」「支える」となっており、自分も最初に見た時にユニークだと感じた。

事務局：資料1-3の（5）では【本市スポーツ資源を生かした「みる」スポーツの推進】の中に「みる」要素と「する」要素が混在しているため伝わりづらくなっているが、「する」スポーツツーリズムは「行動をする」という意味のため（5）と（6）で分けて記載をしている。また「楽しむ」については、「市の施設や自然、わがまちアスリートを生かして楽しむ」という説明を前置きとしている。ご指摘のとおり、「する」、「支える」にも「楽しむ」は含まれており、決して「する」「支える」の楽しむ要素を否定している訳ではない。

委 員：会長の発言にもあったが、スポーツ関係者の中では「する」「みる」「支える」が謳われてきたが、スポーツ基本法、スポーツ基本計画をスポーツ庁が策定した際に、「みる」の箇所を「楽しむ」とした。それに影響を受けていることを懸念している。豊田市が独自に「みる」の箇所を「楽しむ」にしている理由や根拠があるのであれば問題ない。

事務局：影響を受けているわけではない。

会 長：資料1-4について、ご意見、ご質問等があればお願いしたい。

会 長：まずは、私から1点質問させて欲しい。23ページの【スポーツの定義】の箇所だが、【学校教育における体育の授業】が具体例の1つとして挙げられている。これもスポーツ基本法等を参考にし、作成したという認識で良いか。細かい部分ではあるが、スポーツと体育は異なる意味を有していると考えている。

事務局：あくまでも身体を動かすという観点でどういった事例があるかを考えた際に、学校での体育の授業も身体を動かす機会として具体例に含めた。

会 長：スポーツは、個人の「やりたい」と思う自発的な意欲が大切になってくる。しかし体育は学校の授業の一環としてやりたくない子も「受けなければいけない」状況になるため、異なると考えている。あえて記載している理由があるのであれば問題はない。

事務局：第4次プランの中では、評価指標を【1日の運動量が60分以上】としており、これは体育の授業時間を除いているため、会長のご指摘のとおり、修正を検討する必要があると感じた。

会 長：「運動・スポーツ」のような書きぶりであると、運動の中に「体育」が含まれるため違和感は無いが、「スポーツ」だけだと体育を含めることに違和感がある。また、資料1-3において、【eスポーツ体験会】が含まれているが、スポーツの定義を掲げている中で、eスポーツを含めるのは適切であるか。

事務局：資料上にはeスポーツの他に【レクリエーション活動】も表記しており、幅広く遊びの延長線でのレクリエーション的な活動の中にeスポーツが位置していると認識しているため、個人の体力に応じて実施できるものとしてスポーツに含まれるものと考えている。

会長：つまり、情報機器を使った身体活動という認識でいいか。

事務局：おっしゃるとおり。特に高齢者や障がい者に向けてスポーツ機会を設けるためにeスポーツを活用できればと考えている。

副会長：資料1-4の35ページにて【体力が低下してくる高齢者が、気軽にスポーツに親しんでもらえる取組を、…】とある。それに関連して今年度の6月市議会定例会にて、市は、「高齢者向けの健康づくりやスポーツに関しては地域スポーツクラブと連携した健康増進事業のほか、介護予防を目的とした高齢者の元気アップ教室、官民連携により多様なプログラムを提供するずっと元気プロジェクトなど様々なニーズに対応する取組を実施しています。こうした取組に加え今後は運動能力が低下した人でも参加できる機会を提供するため、新たにレクリエーション要素の強いモルックやカローリングなどのニュースポーツ、あるいはテレビゲームなどを活用したeスポーツの体験機会を設けて参ります。」と答弁をしており、eスポーツもスポーツの分野に含めていることについては理解している。障がい者のスポーツ体験には「eスポーツ」が含まれているため、高齢者についてもスポーツ機会の確保策として「eスポーツ」を含めると良いと思う。

また、30ページ(4)【新たな施設整備や既存施設の大規模改修の検討】のスカイホール豊田の枠の中に【プロリーグや大規模イベント等の誘致における施設の優位性を高める必要がある場合、その機能の検証等を行う。】とある。他の施設よりも秀でていない箇所があつて、修繕を求められた際に検証を行うという意味の文言と思うが、この資料は方向性を示すものであるため、【高める必要がある場合】ではなく、【施設の優位性を高める等の検証を行う。】とした方が適切であると考えている。修正を検討いただきたい。

事務局：承知した。修正を検討する。

委員：評価指標とスポーツの定義についてお聞きしたい。前回の第4次プランでは1週間の総運動量に体育の授業が含まれていないということであった。資料1-4の34ページを見ると、「1週間の総運動量が60分未満の児童・生徒の割合」は小学生14.6%、中学生14.5%とあり、学校の体育の授業は週3日ほどあるため1週間で60分以上は簡単に超えていく。第5次プランにおいて体育の授業を含めるのか含めないのかその整合性はしっかりととれるようにして欲しい。また、最近の体育の授業の在り方も変わってきており、一昔前の体育の授業は競技志向が強く、競技力を高める様な授業内容であった。

しかし、昨今は運動の好き嫌い、得意不得意の2極化が特に顕著に見受けられるため、体育教師はそれを課題として捉え、現在中学校の体育の授業では、積極的にニュースポーツを取り入れ、楽しみながら身体を動かすことに重きをおくようにしている。また楽しいだけでなく、仲間と一緒にやることの楽しさを求める様な授業内容となっており、昔の授業内容とはイメージが変わってきている。

会長：資料1-3の（7）にて、【スポーツ人材・組織の基盤の強化と連携の推進】とあり、評価指標は【スポーツを支える活動をした市民の割合】を向上させるとしているが、人材の内容だけが記載されているため、組織に関する評価指標についても記載するするべきと感じた。
また、（9）【スポーツ活動を支える仕組みづくりの推進】とあるが、評価指標が施設の利用者数となっており、仕組み作りが上手くいったかどうかが利用者数で評価できるのかが疑問に思った。

■議題（2）部活動の地域展開のガイドラインの作成について（報告）

事務局：資料に基づき、部活動の地域展開ガイドラインについて説明

会長：事務局の説明について、ご意見、ご質問があればお願いしたい。

委員：一番気になったのは、資料2の4ページの内容で指導者が他地域からこどもを集めではないと記載があるが、書いてあるとおりの意味か。

事務局：そのとおり。

委員：つまり、こどもたちは自分の中学校にある活動しか選べないという事か。他校にやりたい種目はあるが、自分の学校には種目がない場合であっても他校の活動に参加できないのか。

事務局：自校にやりたい種目がない場合は、他校の活動に参加することは問題ない。資料2の3ページ6番目に明記されているが、希望している種目が自校にない場合は、他校の活動に参加可能としている。

委員：承知した。もう1点、資料2の8ページの文言についてだが、（3）の2個目に【一人一人の体力・技術に見合った】とあるが違和感がある。「技術」ではなく、「技能」の方が適切ではないか。

事務局：ご指摘について、修正を検討する。

委員：また、資料2の8ページ（3）【目標設定】のPDCAサイクルについてだが、チェックの評価指標は何になるのか。

事務局：市ではその指標を定めない。

委 員：それをしないで、PDCA を回すことは困難であると考える。PDCA は本来 C から始まるものでチェックの評価指標を定めずに、サイクルを回していくのは困難である。また、【勝利至上主義的・結果優先的な考え方ではなく、参加者の状況に応じた目的・目標を設定する】とあるが、9 ページに【レギュラーでない選手】とあるがこれは矛盾しているのではないか。生涯スポーツの観点に立つのであれば、レギュラーか否かのような観点は不要ではないだろうか。

事務局：ご指摘のとおりとよた地域クラブ活動では、レギュラーでない子も楽しめることが重要であると考えているため、資料内の文言修正を検討する。

委 員：「すべてのこどもたちがそれぞれのレベルに応じて試合体験ができるように…」のような謳い文句であれば良いと思う。あるいは中小体連の先生方や市の方で、カテゴリー別のレベルにあった大会をやっていただければ、全てのこどもたちがそれぞれの能力に応じて、試合の緊張感も味わうことも可能になってくると考える。地域クラブ活動の指導者に普段の活動のみを任せのではなく、ビギナークラスの大会やアドバンスクラスの大会などカテゴリー分けされている成果発表の場の運営も任せることが重要であると考える。

事務局：参考にさせていただく。

委 員：大会の運営を今まででは教員がやっていた。中学生の保護者に聞くと、教員の負担軽減のために、大会の運営から手を引いており大会が減ってきていると聞いている。今後教員が撤退した場合、教員のツテで行われていた練習試合などは一切無くなってしまうのか。自分の自治区は少年団のコーチが指導者をしており、ある程度他の指導者との関わりがあるため試合ができるとは聞いているが、そのような状況だと地域で試合数などにはばらつきが出るよう思う。今後、大会運営などは誰がしていくのか。

また、カテゴリー別の大会について、小学生の駅伝大会に普段試合に出場していない中学生が参加していた。小学生は中学生と走れることに喜びを感じ、中学生は先頭で走れることに喜びを感じていた。このような取組は既に他の種目でも行われているのか。

また、目標設定は誰がするのか。有償ボランティアとして現場に入ってくる指導者はこどもたちのレベルが全く分からず状態で、目標を設定するのは難しいと思う。個人的には、教員に目標を立てもらった上で現場入りした方が良いと思っているがどうか。

事務局：教員同士のツテについては、対策として市が開催する研修会で指導者間の輪を広げてもらおうと考えている。現在は指導している種目に関わらず参加できる集合研修と、種目別に行う研修の2種類がある。集合研修については、研修会の中で意見交換会を設けて、指導者同士の関係を広げられるようにしている。

種目別については、陸上競技であれば陸上の指導者同士で集まる機会となっている。大会運営については、現在議論している最中であるため、この場で明確な回答はできない。大会ごとで主催者が異なるため、統一的な運営ができない状況となっている。

運営スタッフについては、課題として認識しており、教員の手から上手く移行していければと考えている。運営スタッフがいないから子どもの成果発表の場が失われてしまうような事態は避けるようにしていく。

カテゴリーを分けた大会の運営についても、大会ごとで異なるため今後の検討であると考えている。

目標設定については、地域の指導者と教員が一緒になって子どもの指導をしている間に目標設定に関するノウハウや感覚を養っていただき、指導者だけで目標設定ができるようにしていく。

委 員：大会については、夏に行われる大会は中小体連と教育委員会が主催して行っている。市内大会を勝ち上がり、西三大会・県大会・東海大会と段階を経て全国大会へとつながっていくものとなっている。それ以外の大会については、教育委員会と中小体連が主催している大会はなく、協会や連盟が主催している。現在、各競技種目の協会・連盟に所属している教員が数多くおり、協会・連盟の大会であっても教員が大会運営を担っている。来年度の9月から部活動の地域展開が本格実施されるため、8月までは今まで通り教員が大会運営をしていく。9月以降教員の手が離れ、地域指導者のみで大会運営できるとは考えていない。しばらくの間は教員が大会運営を担い、いずれは教員ではなく指導者が運営できるように体制づくりをしていく。カテゴリーごとの大会運営について大会の規定にオープン参加の枠がある場合は、誰でも出場できるが、陸上特有だと思われる。他の種目については複数チームが参加するような形式は見受けられないのに加え、サッカーや野球は運営上オープン参加は難しいと考えている。

委 員：既に問合せが来た経験もあるが、地域クラブ活動と地域スポーツクラブが紛らわしい。地域スポーツクラブの名前を改名して欲しい。地域クラブ活動の問合せが地域スポーツクラブにかかるべからずになると良い。

以上